氏原鋹女史を悼む

倉橋惣三

氏原鋹女史、五月十九日早曉、熱海西山の別邸に於て、八十歳の高齢を以て逝かれた。老女史は實に我國保育界の先驅であつて、東京女子師範學校（今の東京女高師）の保姆見習生（今日の保育實習科の最始期のもの）の第一回生であつた。時は明治十一年、大阪府が幼稚園設置の必要を認め、その保姆としての短期養成（十ヶ月）のために、氏原鋹、木村末の二人の若き婦人を遙々上京勉學せしめたのであつた。當時は東海道の鐵道もまだ無かつた頃で、東京遊學は殊に若き婦人の身に、容易のことでなかつた。東京女高師の附屬幼稚園は明治九年の開設であるから、まだその頃は見習生指導の途も整つてゐなかつたであらうし、その勉學は道中以上の骨折りであつたと思はれる。保育法は通辯附きで、クララ女史から學んだ譯であつた。卒業の後（明治十一年九月）直に歸阪、北區中之島府立中學校の一部に大阪府立模範幼稚園の開園準備を急ぎ、明治十二年五月、開園、その主任保姆となられた。此時は我國の幼稚園は、東京女高師の附屬幼稚園の外、殆んど時を同うして開園せられた鹿兒島幼稚園（明治十二年四月開園、今の鹿兒島縣女子師範學校附屬幼稚園の前身）と此の大阪の幼稚園とがあつたのみであつたのである。鹿兒島の方は東京女子師範附屬幼稚園保姆（即ち、氏原見習生等の指導者）豐田芙雄女史（今尚ほ水戸市に矍鑠として御健在）が、派せられて開園の任に當られ、大阪の方は氏原女史であつて、師弟して我國の二つの最初の公立幼稚園を開かれた譯である。大阪府立模範幼稚園は後廢園となり、その跡に私立中洲幼稚園が生れ（明治十六年十月）女史は引つゞきその主任であつたが、明治十七年大阪市が北區公立幼稚園を設くることになつて、氏

原女史も亦私立中洲幼稚園をそのまゝ引づいで、その方に移られた。そして、そこでは、區内全小學校附屬幼稚園の設立に伴つて必要な保姆の養成にも當られた。女史の令妹膳眞規子女史は姉君と共に初めから幼稚園に勤務せられ、此の時、此の公立北區幼稚園と同時に開設せられた西區の公立幼稚園に移られたのであつて、氏原女史は北區に、膳女史は西區に、實に姉妹して大阪幼稚園の祖となられたのである。

氏原女史は晩年を令息醫學博士氏原均一氏御夫妻の豐かなる孝養の下に、氣候温かく、風光明るき熱海の別邸に悠々老を樂んでゐられたが、尙、その興味は幼稚園のことを離れず、屢〻東京に出でゝわれ等の幼稚園の諸會合に妹君と共に列せられるを樂しんでゐられた。老を忘るゝお元氣であつて、若い保育實習科卒業者のためにいろ〳〵と興味深き昔話（生きた保育史）をされ、更に朗々として詩吟などをせられて、若者を鼓舞激勵せられたのであつた。

膳女史は先きに長逝せられ、姉君として如何にお力落しのことであつたらうと皆々お察してゐたのであつたが、その後は何んとなく健康もお勝れにならず、東京の會などへもお出でがなくなり、御靜養を主としてゐられたが、御病氣を以て妹君の後を追はれたのであつた。そして、その直前まで幼稚園のことを考へて、御所感やお作なども送られたのであつた。

茲に謹で、我國の幼稚園の祖なる姉妹の大保育者の靈に、心からなる敬意を表し、日本幼稚園史上に長く〳〵記念し奉る。

（因に女史のお墓所は大阪市外螢ヶ池圓滿寺である）